

2018年「若手セミナー」実施報告



日本地下水学会「若手会」、若手支援・男女共同参画（YEPS）委員会
杉山歩*

5月18日（金）13：00～13：30に日本大学文理学部百周年国際会議場において、日本地下水学会第3回若手セミナー「海外留学や就職を目指す若手研究者のためにーカナダでの体験談ー」を実施した。講師には、カルガリー大学でご活躍されている林 正貴教授をお招きした。林先生は、ザンビアの難民キャンプへの参加後、地下水の知識を得て国連の援助専門家になるという動機から千葉大学大学院に入学、その後1990年にカナダのウォータールー大学に入学され、1997年よりカルガリー大学で教鞭を執られている。本セミナーは日本地下水学会春季講演会前日に行われたもので、若手技術者、研究者、学生等46名が参加した。講演会は、質疑が飛び交う、アットホームな空気の中進められた。

講義では海外の大学院に進学する際のポイントについて、ウォータールー大学を例として説明された。ウォータールー大学では、地下水に関する研究が盛んに行われており、地下水学のメッカとも呼ばれていた。大学院受け入れ基準として以下の点がポイントとして挙げられる。

1. 履歴書（Curriculum vitae, CV）
2. 成績表（Grade point average, GPA）
3. 大学院志望の動機（Statement of research interest）
4. 推薦状（Reference letters）
5. 外部からの奨学金（External scholarship）

履歴書作成には、研究履歴だけでなく社会人経験やボランティア経験がプラスアルファになるということ、推薦状の作成にあたっては、推薦状をかいてくれる人に出会って関係を築いておく必要があるといった点が印象的であった。また、学費については、留学する国によって制度が異なるため、予め調べる必要性を感じた。また、大学院入学のほか、短期留学やポスドク研究員、あるいは海外の学会への参加等海外への道は様々であり、どのように扉を開いていくかは各個人の気持ち次第であるようにも感じた。



写真1. 若手セミナーの様子

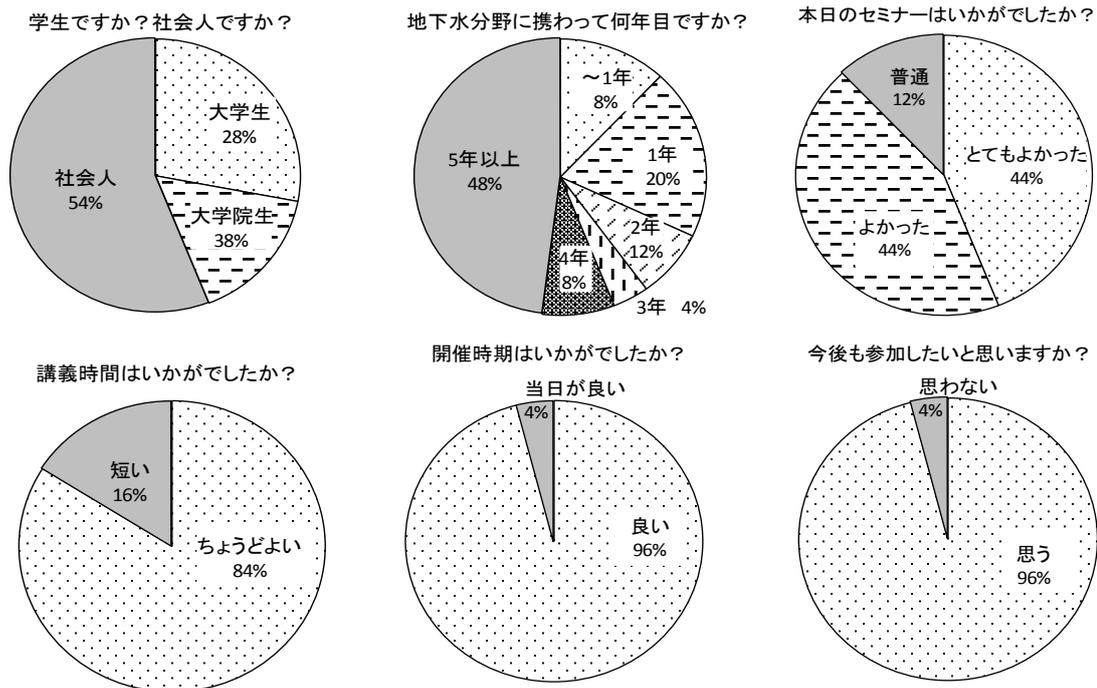


図1. 若手セミナーにおけるアンケート結果

セミナー後実施したアンケートによると、参加者は、企業の技術者及び学生がおおよそ半々であり、地下水分野に携わって4年以下の参加者がおおよそ半数を占めた。講演内容及び開催時期は好評で、高い満足度を得られた。内容が充実していたこともあってか、講演時間がやや短いといった意見も聞かれた。また、コメント欄からは、“実体験に基づく講演で、貴重な情報が得られた”、“留学の経験、仕方、費用等について具体的に聞くことができてよかった”、“日頃自身が関わっている世界が狭いことを痛感し、広い視野で仕事をしないといけないと感じた”、“海外に興味を持つことができた”等肯定的な意見が目立った。

また、講演内容を通じて“縦と横のつながりを大切にしたい”、“幅を広く友人を作ることが大切と感じた”等の意見も目立ったことより、若手会の企画等が若手の交流の輪を広げる一助となることの必要性を感じた。

若手会コアメンバーでは、日本地下水学会秋季講演会における若手会主催の企画を現在検討中である。交流の場を増やすための若手交流会の実施やグループワーキング、また海外に興味を持つ若手への情報提供として、IAH Japanの紹介等を検討している。現在日本地下水学会の若手会は、メンバーが46名、若手セミナーや若手交流会等の企画・運営を行うコアメンバーが6名である。現状、年齢制限は設けておらず、若手という気持ちがあれば誰でも参加可能である。今後のイベントに関するご意見、ご希望等も募集しているので、興味があれば下記YEPS委員会までご連絡いただきたい。

若手会への参加は、学生・社会人問わず随時募集中です。ご興味のある方は是非下記YEPS委員会のアドレスまでご連絡下さい。

MAIL : japh_eps_member@googlegroups.com